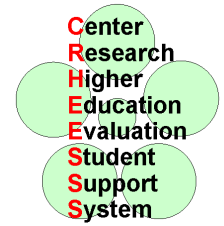


週刊センターニュース No.306



第306号(2010年5月6日)木曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：<http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

〇●〇 「Campus Asia」構想について 〇●〇

高等教育の国際化戦略について紹介(本誌292号および299号)した中で、昨年二度にわたり開催された日中韓サミットにおいて東アジア地域における大学間交流が提案されたことにも触れたが、この提案を受けて、日中韓での大学間における質の保証を伴う形の交流の推進方策について議論する有識者会議(「第一回日中韓大学間交流・連携推進会議」)が、4月16日(金)に東京で開催された。会議には、日本から安西祐一郎氏(中教審大学分科会長・慶応義塾学事顧問)、徳永保氏(文科省高等教育局長)、平野眞一氏(大学評価・学位授与機構長)などが出席し、各国から政府関係者、質保証・評価機関、産業界の17名が一同に会した。この会議により、「Campus Asia (Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia)」の取り組みが開始されることとなった。その概要は、

- ◇ 大学間交流を拡大することは、東アジア地域の学生・教員の移動が活発化し、かつ経済活動の一体化も進んでいる中で、地域全体を視野に入れた人材育成をする上で不可欠である。
- ◇ 同構想を着実に進めるために、当面、大学間における交流プログラムや質保証に関する共通理解、単位互換や成績評価などを含む大学間交流プログラムに関するガイドラインの取りまとめ、パイロットプログラムの早期の実施と支援方法の検討、大学評価の共同指標作りや質保証に関する共通用語集の発行、3カ国の大学評価に関する情報の共有化、大学評価活動への相互参加、といった事項についての検討を開始する。
- ◇ 上記のために、「大学間交流プログラム・ワーキンググループ」「質保証ワーキンググループ」の2つを設置し、専門的な議論を深めていく。ワーキンググループの議論(状況)を踏まえながら、定期的に推進会議を開催する。

といった内容となっている。

1点目および2点目に関連して述べれば、Campus Asia 構想は、ヨーロッパ高等教育圏の構築に向けたボローニャプロセスを含めた高等教育改革の流れと大いに共通し、また世界規模の人材獲得競争に対する危機感から発して、それへの一つの対応とみることもできる。各国の大学が各国のそれぞれの殻(例えば、日本であれば「日本標準」)に閉じこもり、また質保証がおぼつかないほどに多様な高等教育機関(主に私学セクター)が近年多く生まれている状況にあると(内外から)認識される中で、3カ国の高等教育の国際的通用性や国際展開の観点からみても、重要な部分といえる。構想では、具体的に3カ国の個別大学間における大学間交流のパイロット・プロジェクトも検討されているようであるが、東アジアにおける知の拠点を目指し、教育研究の国際競争力を高めようとしている金沢大学も、中央教育審議会等で議論されている内部質保証システムや、AP・CP・DPの

明確化やPDCAサイクルの確立など、全学を挙げての早急な対応が望まれるところである。

(文責 評価システム研究部門 渡辺達雄)

※ 参照資料 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/1292771.htm

〇●〇 大学での職業教育必須化（設置基準改正）について 〇●〇

文部科学省は2010年3月12日付けで、大学設置基準および短期大学設置基準を一部改正し、これまで特に触れられてこなかった職業教育について規定を盛り込むことを発表した¹⁾。産業界が期待し大学に要請するものとして、学生の基本的な資質能力を向上させ、職業生活へスムーズに移行できるように大学が支援するよう、基準で具体化させるものとみることができる。

基準では、画一的な教育内容や方法などは求めておらず、大学規模・学部特性などに応じてそれぞれの自主性を尊重し、様々な取組を認める方向をとっているが、職業教育科目に関わりシラバスを通してその内容説明と、大学にふさわしい水準を備えることを最低条件としている。これは、一部の大学でみられるようなハウツーにあまりに偏っている指導や、アウトソーシング（外部機関）に頼った指導を戒める形となっている。

またインターンシップ教育などに関わって、これまで以上に社会と関わりを重視する方向で、産業界や地域、自治体との連携・協力を努めることも求めている。

上記基準の施行（平成23年4月1日から）により、キャリア・ガイダンスや職業支援などを大学の正課として取り込み、卒業要件の単位として認定する流れが今後進むものと考えられる。

(文責 評価システム研究部門 渡辺達雄)

1) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1289824.htm

〇●〇 5月の角間ランチョンセミナーのご案内 〇●〇

5月は、「国際交流月間」として、様々な話題のもとづき留学生や日本語・日本文化研修生による外国社会・文化に関する報告に加え、留学生センター等の教職員によるミニ留学説明会など、ためになる情報をお届けいたします。国際交流・異文化理解に関心をお持ちの方、是非ご参加下さい。詳しいスケジュールは、<http://www.rche-kanazawa-u.jp/event/r10.php> で参照できます。

〇●〇 センター教員活動記録（4月） 〇●〇

2010.4.10~11 JSTワークショップ（科学技術振興機構プロジェクト「自閉症に優しい社会：共生と治療の調和の模索」）に参加、会場：東京JSTホール・市ヶ谷（青野）

2010.4.24 3認証評価機関・日本学術会議共催シンポジウム「これからの大学教育の質保証のあり方—大学と認証評価機関の役割—」に参加、会場：上智大学（青野）